

J R 東海 労 幹 関 西 地 「 申 」 第 5 0 号  
2 0 1 5 年 4 月 9 日

東海旅客鉄道株式会社  
新幹線鉄道事業本部関西支社  
支社長 田中 守 殿

J R 東海 労働組合新幹線関西地方本部  
執行委員長 小林 國博

### 大阪仕業検査車両所・丹藤助役の威圧的な言動に対する抗議の申し入れ

4月3日、大阪仕業検査車両所の丹藤助役が、平成27年度要注意作業3月分点検を行うと言いながら組合員に威圧的な対応を行った。ここに厳重に抗議する。

当日、丹藤助役は、組合員に要注意作業3月分点検（「消耗品・工具の数量確認」と「ATCチャート確認作業！」）を行いましょと声をかけてきた。組合員は「無理です」「まだ、覚えていないから」「いつになるか）まだ、わかりません」と今は無理であると返答した。しかし、突然、丹藤助役は「何故やらないんですか！」「この（要注意作業点検）位置づけを知ってますか！」「1時間もあって覚えられないんですか！」「〇〇君はやっているじゃないですか！」「何故やらないのですか！」と組合員の返答について気にいらなかったのか、今出来ないことが重大な問題であると決めつけ叱責した。

この様な威圧的な対応は、社員と管理者とのコミュニケーションを損なうばかりか、他の真面目な管理者との信頼関係を失うことになり、安全を守る日常業務の遂行に悪影響を与える言動である。

要注意作業点検の確認は、毎月、行われているが、3月分の掲出は大きく遅れ、3月は「命を守る・ルールを守る教育」、「安全教育・スキルアップ訓練」、「重要作業ワンランクアップ教育」、「パンタ関係作業確認者認定制度（知悉土確認及び技能確認）」等々の多くのスケジュールがあり、社員が要注意作業点検をやりたくても、朝の時間帯に管理者が詰所を離れていて対応してもらえない日が沢山あった。その結果、3月分の要注意作業点検が4月にずれ込む社員が存在した。そのような状況をいっさい考慮せず自分の都合だけで対応した丹藤助役の言動は、安全を脅かすヒューマンエラーの原因につながる行為である。このような管理者の対応について抗議し、会社は今後の再発防止について考えるべきである。

よって、下記の通り抗議するとともに見解を求める。

### 記

1. 丹藤助役は組合員に対する威圧的な行為はヒューマンエラーの原因となるので改めるよう指導すること。
2. 丹藤助役の威圧的な言動について、会社として見解を明らかにすること。
3. 会社は、今後このようなことがないように丹藤助役を指導、徹底すること。

以上